

はるす

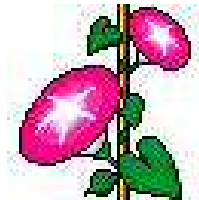
発行日 2002年7月1日 第10号
発行 札幌歯科医師会立口腔医療センター
〒064-0807札幌市中央区南7条西10丁目
TEL (011)511-7774 FAX (011)511-1530
<http://www2.tky.3web.ne.jp/~sasshi>
E-mail sasshi@tky2.3web.ne.jp
発行人 小林重行 発行責任者 鶴岡一彦

20年目を迎えて

口腔医療センター 副所長 尾崎勝巳

口腔医療センター障害者診療部は昭和57年12月開設以来、今年で20年目を迎えました。昨年4月より外来診療面の充実を図ることを目的として開設以降初めて診療体制を見直し休日扱いとなっておりました月曜日も診療日とし診療及びブラッシング指導等を行っております。

さて、障害者診療部は原則として外来での治療、指導を基本としております。しかし、先日行いましたアンケート調査で、高齢化に伴い将来当センターへの通院が徐々に困難になることを不安に考えている患者さんあるいは保護者の方が以外に多く、通院出来なくなった場合の心配を多く抱えているという回答が多く見られました。



このような結果から検討しなくてはならない問題も多々ありますが、将来は訪問による定期検診、口腔衛生指導、治療等も模索していく必要があると考えております。

今年は皆様ご存じのように札幌で、4年に一度のDPI(障害者インターナショナル)世界会議が開催されます。札幌もこれを契機に障害者に対するノーマライゼーションの概念がさらに市民に浸透しバリアフリー化も進むことが期待されております。

当センターも皆様のご意見を基に過去の経験、実績を踏まえてさらなる診療体制、診療環境の充実、発展を目指し今後も関係者一同努力していく所存でございますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。



〔訪問歯科診療を中心に〕

今回は当センターへの希望、要望を集めてみました。
原稿を寄せてくださった方々大変ありがとうございました。
発行が遅れてごめんなさい。皆様の声をエネルギーとしてセンターをもっと利用しやすく、身近なものに発展させて行きたいと思っております。
どんどんご意見をお寄せ下さい。



口腔医療センターへの要望

高野 百合子さん

口腔センターに通院しまして、一年四ヶ月が過ぎます。

息子（41才）が、36才の時、東京の路上で脳内出血で倒れ、手術したら後遺症が、右半身麻痺、言語障害が残り、今はリハビリ中です。

一年過ぎるごとに、立ち上がってくれるのを心待ちにしていますが、体調の方も良くなり、頭をなやませている 今日此の頃です。

口腔センターに要望を書かせていただきます。

待合室ですが、受付の前が狭く、車椅子が人様にぶつからずに通れる様にしていただければ—と思います。

お手洗いの件ですが、車椅子のお手洗いは広くて使い易いのですが、普通の「男」「女」を洋式にして頂きたく思います。

患者さん皆さん障害を持っている方々ですので、洋式ですと、安心して用を済ませることが出来るかと思えます。駐車場の件ですが、冬、駐車場よりセンターに直接入れるようになっていたら良いと思えます。

車椅子での雪道は、とても大変です。また凍って道がつるんつるんの時は、車椅子が転ばないように、自分も転ばないようにしなければと、体中に力が入り、とても疲れます。

最後になりますが、訪問診療の件です。

今は、私共両親が元気で通院出来ますが、だんだん年を老いて行きました時、息子が、体調を悪くして、どうしても歯科にかかりたい時、訪問診療をしていただけたら安心致します。

訪問診療の実現を強く望みます。



訪問歯科治療について

野沢 陵子さん

娘が以前、虫歯で家の近くの歯科にかかり、治療も終わった頃、交通事故にあい、その後は障害児ということもあり、なかなか親の足も進まず、そうこうしている間に虫歯も進行し、口腔センターとのおつき合いが始まりました。

もう4年近くになるかなア。その間に私も車の免許を取り、下手ながらも運転してセンターへ。

でも交通量の多い石山通りは今でも緊張するし、特に冬は渋滞で車も進まず。

今は娘も小3なので、抱っこして車での移動も可能ですが、成長とともに私一人での介助が難しくなることは、目に見えています。

また、私もリウマチという持病があり、夏はいいけれど、冬は手や手首が痛くて、娘を抱っこすることができない日もありました。

本来なら家の近くの歯科で治療を・・・と思っているのですが、階段があったり、エレベーターがあっても車イスのままで入れない状態。

そんな中、テレビで訪問歯科治療（移動バス）をしている女医さんを見たことがあって、札幌でも老人だけではなく、障害児の治療もしてくれたらいいなア—とっていました。

歯科へ行きたくても、いろいろな事情で行けないお母さんたちもたくさんいると思えます。

移動バスなどで家の側や施設（学校、肢体不自由）などで治療ができれば親は本当に助かります。

何とか早く実現できることを切に願っています。



渋井 郁さんのお母さん
渋井 奉子さん

現在 30才になる娘が口腔医療センターに通い始めて20年くらいになると思います。
比較的近かった豊平区から片道小 1時間かかる東区へ移っても通い続けているのは、うっかり者の私にとっては有難い定期検診の案内状が届くことと何よりも本人のその日の様子を見ながら恐怖心や痛みを与えない治療への努力と工夫を常にしていただけるので安心してお任せできるからです。
昨年数本虫歯になってしまい止むをえず、大学病院に入院し全身麻酔による治療を受けました。病室に入ることも病院食も拒否という状態でしたが、何とか治療は済ませることができました。けれど治療への恐怖心は強く残り、その後再びセンターに通い始めた当初は顔が強ばっていました。
そんな彼女がスタッフの皆さんのきめ細かな対応で少しずつ「嫌だけどしないとダメなんだよね」 といううしろ姿を見せて診療室に向かうようになりました。
遠くても通い続けるもうひとつの訳は、思いがけず彼女の通学・通所時代の仲間と会うことができるからです。親同志お互いの近況報告に始まり抱えている悩み、将来のことと話は尽きません。
私にとっては情報交換の場であり元気を分けてもらう場でもあるのです。
今は母子ともにまだ健康なので余裕をもって通院できていますが、私にトラブルが起きた時には即彼女の治療ができなくなる可能性があり、不安もあります。知的障害児者のための市のガイドヘルパー制度がやっとスタートしましたがまだ充分とは言えません。
センターに通われている方の中には、身体的に多くの支援を必要とする方も見受けられます。急に家族が付き添えなくなった時には、介護の知識をもった方に送迎していただけると随分助かると思います。
高齢者に関しては施設や自宅で治療を受けられるようになり、街中でそのための車輜を見る機会も増えました。
小児専門の歯科医院も目にすることが多くなりました。支援を多く必要とすることでは高齢者も子どもも障害をもった人も同じでしょう。早急にはできるものではないですが、どこに住んでいても障害をもった人とその家族が特別な負担を負わずに、治療を受けられる仕組みができることを願っています。



北島和幸さんのお母さん
北島 妙子さん

最近、歯科にも訪問診療があるといいな！と思う事がありました。
一つは、息子が骨折、ギブスをしていたので口腔センターの予約をキャンセルしたことです。
学校の登下校も手伝ってもらっていましたので、これ以上の外出は親にとって無理な状態でした。
歯のことも気になりながら、親より長い手、足、それにギブスとなるとあきらめるしか方法はなくなるものです。
もう一つは骨折の熱や緊張が強くなったりしていたので、足の指のまわりにびっしり水虫ができてしまい、それもどんどん広がっていきました。思い切って近くの皮膚科に往診をお願いすると、すんなり OK。
先生が汗をかきながら歩いて来てくれたのには感激してしまいました。
複数の病院を受診している子供ですが、それはいつも出かけるものと思い込んでおりました。
何らかの事情で外出が困難な時、一つの方法として訪問診療が、あってほしいと思いました。



石川祐治さんからの要望 (要望書)

石川祐治さん 障害一種1級3号・第10胸椎脱臼骨折
脊椎損傷による両下肢の機能全廃
車椅子生活13年 カルテ番号1434-3)

まず要望書を書く前に石川祐治個人の障害の状態をカルテの片隅に明記して頂きたい。

なぜか？

障害者は10人10色のたとえの様に健常者には想像が出来ない位の障害者が介助されながら暮らしているからです。

個人個人とコミュニケーションを取る為にも、是非家族や個人と話し合い、カルテに記入して頂き後々ベテランから新人へと容易に引継ぎが出来る様にして頂きたい。

私達は口腔医療センターとは一生の付き合いですから…



1. スロープの問題

規定では、スロープの斜度は1/12、つまり1mの高さを上がるのに12mのスロープが必要とされています。(これから新築する場合と改修する予定がある場合)

センターの正面玄関と北口入口のスロープは単独ではちょっときついが介助してもらえれば充分クリア出来る範囲です。

北口スロープ登り口にもインターホンを取り付けて欲しい。

雨の時、雪の時に使用したい。(取り付ける高さは1mの場所)

6月2日の父母懇談会の時に要望しました。

北側スロープの場合、登りきった踊り場がちょっとせまい為、外開きの扉を開けるのに難がある。出来れば両開きにして固定出来るようにすればベスト。



2. 駐車場の問題

春・夏・秋は殆ど問題はないが、一番不安に感じるのは冬期間、積雪、凍り付いた路面等、又駐車場が重複した場合等。



3. トイレの問題

自称トイレ研究者として)大変難しい問題です。

同じ洋式でも便座付きにして欲しいという意見がありました。

まず、万人の障害者が満足できるトイレはありません。

先日障害者トイレの意見交換があり、札幌式トイレという洋式トイレがベストではないか」という事で意見が一致したそうです。(説明は後日します)

今のトイレは十分ではありませんが、変える必要はないと思います。

[新しくトイレを作る事がある場合は、ウォッシュレットの洋式が良いと思います。

その時は設計段階で参加させて下さい。)]・トイレにせっけんを置いて欲しいという要望もありました。

患者として一番信頼出来るのは、口腔医療センターです。

施設や居宅での検診や診療に関するアンケートの結果から

口腔医療センター障害者診療部で将来通院が困難になることを心配している方、通院に不便を感じている方、駐車場、アプローチや玄関、トイレなどセンターの設備を利用する上で不便を感じている方の意見や要望をセンターとして把握しておく必要があると考え、昨年8月～10月に



かけて患者さんや患者さんの家族の方にアンケートを行いました。

その結果 **133名**の方から回答が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

その結果を紙面の都合上一部ではありますが紹介いたします。

1 当センターまで通院するまでどれ位時間がかかりますか

夏冬の違いなどにより複数回答あり

- 1) 30分以内 **40名** 2) 1時間以内 **67名** 3) 1時間以上 **28名**

2 通院に不便を感じますか

この質問には約半数の **61名**の方が **YES**と答えています。

理由としては次のようなものがありました。

公共の交通機関では通院が不便なので自家用車に頼らざるを得ない。

通院時間がかかり過ぎる。

駐車場に車を入れづらい。

- ④ 冬期は特に通院が大変である。

3 将来的に通院することに対して何か不安はありますか。

この質問には次のような回答が寄せられました。

- ① 親が年を取ったり、病気になったりして付き添えなくなり通院できなくなること。
- ② 子供が成長し、連れてくるのが大変になること。
- ③ 転居など何らかの理由で来院できなくなること。

4 将来、施設や居宅での検診や診療が必要になることがあると思いますか。

この質問に対しては **112名**の方が **YES**と答えています。



ここに載せた内容はアンケートの一部ですが、多くの方が将来何らかの理由で通院ができなくなることに對して不安を抱いていること、またそうなった時に訪問診療などの対応が取られることを希望していることがわかります。

そして診療のあり方も当センターがスタートしたころとは変わりつつあるように感じられます。

センターでは寄せられた皆様のご意見をもとに時代の流れに合ったより利用しやすい施設作りを目指していこうと考えております。



最近の口腔医療センターの出来事



🔍 車椅子に座ったまま撮影できるパノラマエックス線撮影装置になりました。いままでより撮影がずっと楽になっています。画像もきれいになってムシ歯発見に活躍中です。



🔍 歯磨き指導室が新しくなりました。

🔍 トイレの改修工事スタート
使いやすい洋式になります。

救急診療部からのお知らせ

夜間の歯の痛みなど、救急処置を目的としています。継続的な治療は受けられませんのでご注意ください。

診療のご案内
診療時間 19:00～23:00
年中無休
電話番号 011) 511-7774

障害者診療部からのお知らせ

障害者診療部は完全予約制になっております。診療ご希望の方は、下記の時間帯にご予約下さい。

月～金 9:30～12:00
電話番号 011) 512-9497



編集後記

札幌市では寝たきりのお年寄りが歯で困った時、訪問歯科事業がありだれでも利用出来ます。

ご存じでしたか？でもお年寄りでない場合はちょっと大変な場合もあります。

もちろん歯科医師会で受付けています。）

もっともっと利用しやすいようにセンターも時代に合わせてチェンジしなければ!!

企画研修部部長 中澤 潤)

